

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070301203		
法人名	株式会社 ポピー		
事業所名	グループホーム ポピーの家		
所在地	群馬県桐生市仲町1丁目6番15号		
自己評価作成日	平成31年2月 3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成31年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内で過される利用者様の事を考えて、おりがあれば希望を聞いて外出が行われている。また、畑があり、利用者様の楽しみのひとつとしている。入浴も希望があれば入れる仕組みとなっており、回数も多い。スタッフも管理者との連絡がよく図れて管理者が利用者様ひとりひとりをよく把握している。申し送りがきちんと行われているので、各利用者様の変化をよく知って、対応が行われる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症仲町カフェを立ち上げ、地域に貢献している。地域の友人に野菜を売る場として一部提供し、その野菜を買いに来た人もまたカフェの利用者となり、交流の輪が広がっている。隣接地にあるため利用者が参加できるばかりでなく、地域の高齢者にとっても行く場所、居場所になっていて、運営側は飲み物を無料で賄う努力をしている。また、食事については利用者が畑に作付けし、収穫した野菜が食卓に上がる楽しみがあり、自宅で野菜を作っていた利用者にとっては馴染みの支援といえる。1階の共用空間から作物の成長が見られ楽しみの一つになっている。防災訓練についてはカフェに出かける機会を使って自主訓練をし、月に複数回ある。常日頃から自主訓練を重ねることは命を守る訓練になり、事業所が命を大切にしている取り組みがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の大切さと実践に向け、毎月のスタッフ会議時に確認している。また、具体的な内容等については日々話し合いながらケアの場面で実践に取り組んでいる。	業務に慣れてしまうことで理念に沿わないケアが見られた場合は修正し、理念に立ち返ることを旨としている。理念に立ち戻り利用者の環境を変えていく取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣所へのあいさつを心がけている。また、気軽に立ち寄りお茶を飲まれたり、季節の野菜が収穫時に届いたり、交流は日常的に行われている。	隣接地にある仲町カフェに出かけ、地域住民と交流している。また、日本舞踊やちんどん倶楽部、ハーモニカ、バイオリン演奏等の慰問を受け入れ、地域に開かれた施設になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症カフェ」を活用 町内会(組合)に加入しており、公民館活動等を通して日常的に付き合いができています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催して、評価・結果報告・話し合いを行っている。また、そこで出た意見や助言は記録し、スタッフ会議等で話し合い、サービス向上に活かしている。	隔月ごとに利用者の現状報告、行事報告、最近では手のひら静脈認証登録や演奏会ボランティア、野菜直売コーナーの設置等、テーマに沿った話し合いの中で意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は随時ケアマネと連携し、困難事例等の相談・質問など市を訪れている。また、地域包括支援センター等を通して情報交換しサービス向上に取り組んでいる。	行政への相談、報告、介護保険申請代行や認定調査の立会いは主に管理者とケアマネジャーが連携して行っている。仲町カフェの運営についても市や地域包括支援センターに相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議に於いて「身体拘束廃止委員会」を設置し、適正なケアが行われているかの見直し・検討を毎回実施している。検討された内容は職員会議にも反映される。職員研修は年2回以上、新人採用時にも研修を実施している。	玄関は開錠している。拘束用具の使用もなく、スピーチロックについては職員間で注意合っている。身体拘束適正化検討委員会での結果を運営推進会議や職員会議の場で報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見過ごさないよう、個々のケースで危険性があれば、スタッフ会議で取り上げていく。現在該当すると思われるケースは無し。発生すれば機関に報告する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルやパンフレットを利用し学習しており、必要があれば支援を出来る体制を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安、本人の状況をよく把握した上で説明を行い、納得していただき、契約や解除に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の対応の中で話しやすい雰囲気作りをし、傾聴して反映できるようにしている。また、推進会議への出席の呼びかけを行い、議事録を送付している。	比較的用户者は何でも話してくれるので、日常的に利用者の話に耳を傾けるよう心がけ、毎日ケア記録に残している。面会時には家族の具体的な要望や苦情も受ける対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で取り上げて、意見交換や提案をして考慮をしている。	職員は自由に話ができ、相互に間違いの指摘や注意し合える関係性がある。ケアについては申し送りや記録を通して意見や提案をし、働き方や希望する研修会、勉強会への参加に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力・希望も取り入れながら勤務調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の地域密着型サービス連絡協議会等の主催する研修に積極的に参加して情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間の研修に参加して情報交換を行うよう呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回のインテークだけでなく、入所にいたるまで何度か訪問をして安心して利用できるよう、信頼関係を築いていく工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面会をした時点で、安心感を持てるような対応を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を見極められるよう聞き取り、それに合わせたサービス支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のペースに合わせた生活支援を考慮し、共に生活できる環境づくりを目指している。郷土料理やおやつ作りをしたり、できる家事作業は一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、話す機会を多くして小さなことでも情報を共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や隣近所の方の面会など、快く受け入れられている。また、訪問された方については、その都度家族に知らせている。	友人、知人、近所の人や兄弟の訪問があり、これまでの関係を継続できるよう支援している。また在宅時の身の回りの物を傍に置いたり、馴染みの体操や歌等が続けられるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別の持っている能力や個性を生かせる仲間作りをしている。 (席の位置や手伝い、レクリエーション)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調変化に伴い、入院・退院等はあるが、常に連絡をとり、継続的関わりを持っている。随時、相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにより希望等の把握を行い、また、日常の会話や生活の様子からくみ取り、各自の希望・思いに沿って支援している。	利用者には日常的に声かけをしたり、会話をすることで信頼関係を築きながら、利用者の在宅時の様子や今の思い等を引き出し、介護計画に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントによる情報や家族、前任のケアマネの情報を元に介護の経過を把握できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、気分の安定、表情、行動等、細かい視点での観察に努め、総合的に把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別のアセスメントを行い、本人・家族の意向確認をもとにスタッフ会議やミーティング等で話し合いの上、介護計画を作成している。	モニタリングは毎月あるいは2ヶ月に1度行っている。状態が変わった時、更新時には、アセスメントを行い、介護計画を見直し、作成している。	介護計画の見直しは季節の変わり目ごとに、モニタリングは毎月することを目指してほしい。また、介護計画に沿った記録ができるよう工夫してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を元に、申し送り、ミーティングで情報を共有し、担当者の意見を優先し、協議の上で見直しをする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同施設内には小規模多機能型居宅介護サービス部門もあり、必要に応じて訪問やショートステイ、デイサービス支援への変更も可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要性に応じて民生委員、ボランティア、消防等と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時にホームの協力医療機関についての説明を行い、同意を得ている。かかりつけ医による往診支援が行われている。また、必要であれば他の医療機関への受診も支援している。	入居時に事業所の協力医による受診支援で良いか確認し、かかりつけ医を希望する場合は、緊急時でも往診が可能かを確認するようにしている。専門医への受診は家族対応を基本としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護職を配置し、日常の健康管理や医療連携体制が取れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては管理者が立ち会うとともに、随時面会し、家族、病院関係者等との情報交換を密にする体制作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護、終末期ケアについての方針やマニュアルを作成し、かかりつけ医との相談もできている。また、本人・家族等とも十分に話し合いをした上で看取りに対しての意思確認のため「看取り同意書」を提出してもらっている。	看取りを希望する家族は多く、重度化や終末期については段階的に話し合いを持つようにしている。研修会や勉強会に参加し、協力医や看護師のアドバイスを基に支援に取り組む方針にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で学習をしており、マニュアルを作成している。職員の応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を開催し、全職員が緊急時に対応、速やかな避難が出来るようにしている。災害時の避難確保計画を作成し、市への提出を準備している。	年2回の避難訓練と自主訓練を実施している。また、洪水時の避難確保計画を作成し、地域特有の災害に備えている。備蓄品として水、乾パン、米(1週間分)、排泄用品等を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が常に気持ちよく過ごせるような対応と環境づくりを心掛けている。問題が生じた場合はスタッフ会議において話し合いを行っている	トイレ誘導や自立者への排泄の確認は周囲にわからないよう声かけに配慮している。異性介助の場合は承諾を得てからケアにあたり、申し送りはイニシャルで小声で行うよう心がけている。	利用者にとって我が家ともいえる居室に自分の意思で戻れるよう、利用者から言える環境と選択のための情報を提供してほしい。車いすから椅子への移乗も工夫してほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの利用者に、思いや希望を聞き、小さな事でもその都度自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースで過せるよう、入浴や食事の順番や手順など、本人の希望を聞きながら工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に使い慣れた櫛やひげそり、好みの化粧品や服を持ってきてもらい、本人の希望にあわせて使ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの嗜好や残存能力を生かした食事作りを心掛けている。また、食器拭き等の手伝いも積極的に手伝ってもらっている。	届いた食材を献立に従って職員が交代で手作りしている。行事食や伝統食を楽しむこともある。利用者は職員と一緒におやつを作ったり、下ごしらえ、下膳、食器拭き等、今できることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者が食べる大きさ、硬さにも注意し、ひとりひとりに合った食事を提供している。また、食事量、水分量を管理して、不足があれば補うように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に応じて歯磨きをしてもらったり、入れ歯の洗浄をしてもらっている。歯磨きの出来ない方は食べ物が口腔内に残らないよう、職員が確認し、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間はおむつを外し、トイレで排泄してもらっている。特に食事後はトイレ誘導を必ず行っている。	トイレ誘導による排泄を基本としている。声かけの時機は食事前後、おやつ前を目安としているが、間隔は利用者ごとに違うので個別に対応している。夜間はパット使用等、柔軟な支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に常に気を使い、必要な方にはかかりつけ医や看護師の指示により下剤を服薬していただいて調整をしている。体操・ウォーキングなどの運動も毎日行っている。また、おむつに頼らず、昼間はトイレに座る習慣をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞いてその日の入浴の順番を決めている。嫌がる利用者に対しては無理はさせず、入りたくなるまで働きかけをしたり日を変えたりする。	1週間に2回は入浴してもらおうよう、順番に声かけをしている。拒否があった場合は、翌日に体調、気分に応じて入浴を勧めている。異性介助の場合は承諾を得、着替えは見守るようにしている。	入浴が連日であっても毎日入浴できることを伝え、自己選択できるための情報を提供してほしい。希望ができれば支援してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に応じてTVを観たり、個室で過したりしていただき、眠くなったら自然に眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が自分の担当の利用者を持ち、薬についても管理・確認をきちんとしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者によって、食器洗い、食器拭き、床掃除などの仕事をさせていただき、気分転換にカフェに参加して歌を歌ったりコーヒーを飲むなどの楽しみも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	空き地が広くあり、庭で遊んだり、野菜を作ったり、草取りなどをして自分を取り戻せる工夫をしている。また、施設の買い物に出かけたりすることもある。	日常的には散歩や畑の虫取り、作物の作付けや収穫、買い物、洗濯物の取り込み等の機会に利用者が外に出られるよう支援している。ボランティアの協力で青年の家まで出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの原因にもなるので現在、現金は預かっていない。また利用者にも持たせていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけてもらったり手紙を出すお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、年中行事に合わせた室内装飾を工夫している。採光や室温にも配慮して、居心地良く過ごせるよう努めている。	朝食から夕食の終了まで併設の陽当たりの良い、訪問者や四季が良く分かる小規模多機能施設の共用空間で一緒に過ごしている。2階にあるグループホームの共用空間は使用していなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者に落ち着ける場所があり、居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、使い慣れた日用品や嗜好品を持ってきていただけるよう働きかけている。ダンス・椅子・写真等が持ち込まれ、利用者が安心して過ごせる工夫をしている。	居室には馴染みの家具や寝具、衣服、化粧品等の身の回り品が置かれ、写真や手作り作品が飾ってある。自分らしい居心地の良い空間になるよう、職員は居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に、暦(カレンダー類)を設置している。		